

# お菓子をくれなきやイタズラするぞ！ ～ハロウィンを深掘りしてみた～

後期が始まって約1ヶ月が経った今、この1ヶ月をどのように過ごしたかを振り返ってみて欲しい。前期と比べて気を引き締めて勉強に取り組みことは出来ただろうか。残された半年間を有意義に過ごしたい。

さて、今年も日本中が盛り上がる大イベント「ハロウィン」が訪れた。皆さんはどのような過ごし方をしたのだろうか。今回は知られざるハロウィンの裏側を少しばかり紹介する。

ハロウィンは今から約2000年以上前古代ケルト人が行っていた秋の収穫祭や悪魔祓いの儀式から始まった。古代ケルト人の1年の終わりは10月31日、この夜は「諸聖人の日」(キリスト教の全ての聖人、殉教者を記念する日)の前夜であり秋の終わりを意味する。また、冬の始まりでもあり、死者の霊が家族を訪ねてくると信じられていた。そのため人々は有害な精霊や魔女から身を守るために、仮面を被ったのだ。

ハロウィンの語源はクリスマスの前日をクリスマスイブというように諸聖人の日(A1

1 Hallow)の前夜(eve)をHallowsoeveと呼び、これが訛ってHalloweenとなった。

ハロウィンと言えば、かぼちゃをお化けに模った「ジャック・オー・ランタン」(通称おぼけかぼちゃ)を思い浮かべる人が多いだろう。ジャック・オー・ランタンに使われるかぼちゃはアトランティック・ジャイアントと呼ばれる品種が多い。日本のかぼちゃは1〜2kg程度であるがアトランティック・ジャイアントは50〜100kgにまで成長しこれまでの記録によると1tを超えたものもある。かぼちゃの身を抜いて、怖い顔や滑稽な顔の形にくり貫き、内側に火のついた蠟燭をたてて飾ること、悪霊を追い払う意味を持つ。

ハロウィンが大々的に行われているのは主に英語圏のイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどである。アメリカでは、子どもから大人まで幅広く楽しんでる。テレビではハロウィンに関する番組やアニメが沢山放送

される。学校では、子どもと教師が共に仮装をして1日を過ごすそう。夜になると、玄関に灯りがついている家にお菓子を貰いに訪れる、「トリックオアトリート」を行う。また、アイルランドでは「ハロウィン休み」と呼ばれる連休がある。

ハロウィンイベントで盛り上がる代表的な都市といえば「若者の街、渋谷」である。このイベントは通称「シブハロ」と呼ばれ、10月31日の18時頃になると、全国から100万人規模の若者たちが渋谷に集まり、クオリティの高いメイクと仮装をして街を練り歩く。また、コスプレ見たさに多くの外国人も訪れ、渋谷は大いに賑わっている。

しかし、華々しいイベントの裏では、ごみ問題や騒音などの公害が年々深刻化している。参加者はルールを守る必要がある。

行事1つに注目して調べてみると思いがけない発見がある。皆さんにもぜひ身の回りのことに興味を持ってもらいたい。

(渡辺・茂田)

始皇帝アイドル説

秦 前221年 始皇帝が中国統一

年代の覚え方は  
前2 1  
フーフー 言うって  
始皇帝

## 思ひで いっぱい



高校時代の櫻井先生 (櫻井先生提供)

今回取材にお応えいただいたのは、2年6組、7組の化学基礎を担当している櫻井義雄先生(以下先生)である。取材では先生の高校や大学時代、社会人になってからの生活について伺った。

―高校時代の勉強について教えてください。

先生「私は下妻一高出身です。当時から化学は他の教科より得意だったので好きでした。苦手科目は英語で今でも苦手です(笑)。定期考査は1週間前にテスト範囲のところを一生懸命やるだけだったのであんまり成績はよくなかったです」。

―高校時代の部活について教えてください。

先生「弓道部に所属していました。部長をとめていたので部活は一生懸命やっていました。思い出深かったのは、部活の仲間とそばを賭けて競い合ったことです。空き缶を用意して、それを命中させた人が皆から着てもらうというルールです。『今日は勝って皆にそばを着てもらおう』って思ってたんですけど危ないですね」。

―大学時代について教えてください。

先生「私は宇都宮大学工学部環境化学科出身です。自宅から通うのではなく、下宿生活をしていました。私が大学生だった頃は学生運動が活発だったので寮に入ると警察に名前を確認されていました。なので、下宿生活をしていました。地方の大学は都内の大学に比べて、静かで優しくまた楽しい人が多いので、私は地方大学に行くことをおすすめします。研究では海の中の水について調べていました。海の中にある重金属について調べ、それが異なる複数の港でどれくらいの差があるのか、

採取した海の水を濃縮して金属を取り出すというようなことをやっていました」。

―今までの人生で思い出深かったことについて教えてください。

先生「就職できたことです。フィールドワークをしたくて1年間空調会社に勤めていましたが、自分に合わなかったので辞めました。その後、6年間化学に携わる会社に勤めました。この先何十年も毎日ネクタイを締め、満員電車に乗るということを考えると嫌になつたのでこの会社も辞めました。そして、次の仕事を探すときにこれらの職業は何かの会社か考えたときに思いついたのが学校の先生でした」。

―化学の勉強法について教えてください。

先生「演習をたくさんやることです。1週間問題を見るだけだと1週間サボることは同じことです。演習をたくさんやればやるほど初見の問題で『この問題は

## カメラの前で微笑む 櫻井先生



このようにして解けばいいのでは』という発想が生まれるからです」。

―授業中に心がけていることを教えてください。

先生「必ずおもしろい話題や実験をすることです。昔、生徒に手で液体窒素を持ってもらい何秒耐えられるかという実験をしました。普通だったら痛くて数秒で手から離してしまうのですが、ある生徒は20秒から30秒も持つてしまい、手の皮が剥けてしまいました。当時はとても心配しましたが、今となっては話のネタです」。

―下高生に向けてのメッセージをお願いします。

先生「色々なことに貪欲に挑戦してほしいです。たとえ失敗したとしても自分の血と肉になります。ちよつと危ないことをするのも楽しいですよ」。

(矢吹・館野)

先生「色々なことに貪欲に挑戦してほしいです。たとえ失敗したとしても自分の血と肉になります。ちよつと危ないことをするのも楽しいですよ」。

(矢吹・館野)